

埼玉県と千葉県のカクゴスズメノヒエ

土屋 守

カクゴスズメノヒエの分布については中部以西の各地からの報告はあるが、関東地方からの記録はまだ無いようである。私は1986年に埼玉県越谷市大吉の廃田で、1989年に千葉県野田市の江戸川畔で採集している。

越谷市ではカクゴスズメノヒエは廃田一面に密生しており、他の雑草はこれに圧倒されてほとんど生えていなかった。旺盛な生育ぶりを見て驚いたのを覚えている。採集当時は角野氏の報告：キシウスズメノヒエの二型について（植物分類・地理35：182, 1984）を忘れていて標本は名称未詳のままにしておいた。その後1989年7月、野田市の江戸川畔で越谷市で採集したものと同等のものを見つけた。越谷産の標本を出して比べてみたところ同じものであった。だが相変らず種名未詳としておいたが、ちょうど植物分類・地理40巻1～4号が届いた。その中に益村氏の「カクゴスズメノヒエの学名」と題する報文があり、精細な図も添えられていた。これにより越谷市と野田市のものがカクゴスズメノヒエであると判明した。

江戸川畔では野田市の対岸の埼玉県松伏町でも生育を確認した。松伏町産のものは前記2カ所のものと比べるとやや小型で、葉身に毛はほとんど見られない。野田市産の標本は東京都立大学と信州大学に納めておく。

ヒシハムシの

ヒツジグサに対する忌避について

橋本 卓三

次の様な観察事例があるので報告しておく。

1986年9月28日、東広島市西条町吉行の下池での事。水深の浅いこの池には当時ヒシとジュンサイの密な群落で隣り合っており、池底には一面にホッソモが生育していた。ヒシの大半はヒシハムシの食害で枯れており、至る所の水草類に長さ5mm位の褐色のサナギが付着していた。

昆虫についてよく知らず、他のハムシの存否は不明だが、大量発生に伴ってジュンサイもかなり手ひどく食害されて穴だらけとなっていた。岸边の一部にあったヒルムシロも少し食われていた。この中で所々に散在するヒツジグサのみにはヒシハムシの食い跡が全く見られず、

ボロボロになった水草群落の中で鮮やかな緑葉を浮べていた。この光景が不思議であり、食草では無いにしても全く被害を受けないのは何かこの虫に対して毒素の様なものでもあるのだろうかと思ったりしたものである。

水草研究会報37号でスイレンにタンニンや蔞酸が多いと言う記述を読ませて頂いたが、ヒシハムシのヒツジグサに対する忌避もこの事によるのだろうか。それとも別に或る特定の成分が作用しているのであろうか。

三重県多度町のトウビシ危うし

中井 三従美

トウビシ（唐菱）*Trapa bispinosa* Roxb. は中国大陸、インドに分布。本州中部東海地方で戦前より食用にするため栽培されたことがあった。現在は筑後、佐賀地方で栽培されて、ヒシご飯、野菜サラダなどにダイエット食品として需要量も殖えている。

1989年10月5日、本会々員河合良典氏の案内で、三重県多度町福永地区を訪ねた。この地区は上ノ郷、古敷などの6つの集落からなる輪中地帯で、以前にも足を運んだことは何度かあった。この輪中には、甚六池、西田池などのため池と水田の端に小さな水路が無数に通ち、数多くの水生植物がみられる。福永地区北端に近い水路に、トチカガミが多くみられ、その極一部分にトウビシが残存している。前に調査した池No.45甚六池、池No.89西田池ではトウビシの漂着果実を採集しているが、冬期から春期に訪れていた為、今回初めてトウビシの濃緑色の葉、白色の花、紅紫色の果実（生）を目にした。かつてのトウビシ漂着果実の採集池の現状を報告すると、No.45甚六池は東側3分の1ほどが土砂や瓦で埋められて、ヒシ属はわずかに中形四刺、二刺のみみられるだけで、トウビシは確認できなかった。No.89西田池は浮葉の一枚もなく、高圧線をささえる鉄塔が池面にはっきり映しだされていた。この地区からトウビシが消えるには最早それほど時間はかからないだろう。

【追記】同日、福永地区琵琶ヶ池とその北側水路、上の郷地区の水路にアサザの群落をみた。花期に又訪れてみたい。

参考文献

- 大滝末男 1987. トウビシ流行のきざし. 水草研究会報 30:13.
 浜島繁隆 1981. ため池の水草調査3. 植物と自然